

汽車が通つて

100周年

一般社団法人白鷹町観光協会
会長 小関 吉郎



今年も、古典桜や紅花が見事に咲き、ようやく全国からお客様がお出でになるようになり、にぎやかさを取り戻しつつあります。みなさまにいかがお過ごしでしょうか。

さて、4月22日、長井線の全線開業から100年を迎えました。100年を記念して、ラッピング列車（紅花、アヤマ、ダリヤ、桜）の4両連結運行が行われるなど、記念イベントが開催されました。

観光協会では、このイベントに合わせて、70年前、開通30周年旗行列に参加した当時の中学生（現在81歳から83歳）方を募り、合唱隊を編成し、当時歌われた「祝い唄」を披露いただきました。「♪多くの方のお力で…汽車が通って30年、

みんなでお祝い
感謝しよう♪」

出征兵士を見
送った思い出、

貸し切った出か
けた修学旅行、

集団就職の友を
見送ったこと、

出稼ぎに行った
ことなど、思い
出話をお聞きし
ました。



車社会、人口減少など、フラワー長井線は、経営が難しい状況にあります。荒砥高校の生徒さんをはじめ、高校生の通学としてもなくてはならない路線です。方言ガイドさんのツアーに人気があり、国内外のお客様に乗りいただいています。一人でも多くの方にご利用いただき、存続に向けてご支援いただきたいと思います。

またまだコロナ禍ではありますが、各種イベントなどコロナ前に戻りつつあります。9月23日・24日の両日は、鮎まつりを予定しています。ぜひフラワー長井線をご利用ください、お出かけくださいますようお願いいたします。是非ともご支援賜りますよう、お願いいたします。

結びになりますが、荒砥高校同窓会関東支部の益々のご発展と、皆さまのご健康を心から祈念申し上げます。

時代に抗う



日本G T(株)
代表取締役

高 野 徹

昭和60年卒業の高野と申します。

この度縁があり貴支部の支部報に寄稿させて頂くことになりました。

小職は白鷹町の東部工業団地に工場を構える会社で代表を勤めさせて頂いており、弊社従業員の内43名が荒砥高校の出身者です。ただ、ここ数年は荒砥高校からの新卒者も減り、5年前が最後の新卒者となっております。

この春、21名の方が荒砥高校をめでたく卒業されたようですが、その内、町内就職者はたったの2名との事。身近な所でも少子化の波を感じ、地元企業にとって雇用問題は大きなリスクとなっております。

現内閣では「異次元の少子化対策」と銘打って様々な政策が打ち出されてはおりますが、その効果・成果が表れるのは何十年も先の話で、本当に成果が出るのかも疑問なところです。

そのリスクを少しでも補うため、弊社

でも外国人技能実習生を採用しながら労働力確保に努めてはおりますが、それだけでは補えない時代がいずれやって来るのは明らかです。

省力化や自動化などDXへの投資を加速させ生産効率を上げて行かねばと感じている所です。

企業も時代の潮流に抗い（あらがい）もがきながら何とか生き抜いて行こうと奮闘しておりますので、荒砥高校在校生の諸君も、多様性、不確実性の時代ではあります、その時代にあらがいながら社会的進歩や変革を産み出し、より良い未来を築いて行きたいとエールを送ります。



高校の同窓生つて

関 千鶴子
(昭和50年度卒)

菅野孝雄支部長の訃報は、衝撃と「ご縁があってお世話になった方が…」という寂しさでいっぱいでした。ご冥福をお祈り致します。

平成16年（2004年）から町議会議員という立場で、荒砥高校への関わりやコロナ禍で中止になっていた首都圏白鷹会の総会へ参加する機会ができました。総会の会場の上野精養軒で何回かお会いしている中で、荒砥高校出身者であることがわかった時の嬉しさはひとしおでした。そして、お話のなかで望郷の念を感じさせていただきました。そんな折、昨年は私の住んでいる鮎貝出身の方が息子とともに来町され、短い時間でしたが私の知らなかった鮎貝八幡宮の獅子頭のことをお聞きすることができました。有難く思ったことでした。

SNSで繋がっていたこともあり、思いがけず高校の同級生からメールをもらいました。二人の同級生が、関東支部の役員、それも副支部長、事務局長の役職を引き受けたとのこと。「前期高齢者の仲間入りをし、いただいた恩を僅かでも



社会へ返すそんな年齢になったのだなあ」としみじみと感じたところでした。そして、6月の初めにお二人が来町され、あの時に戻って話をするのですが、私にしてみれば数十年を経て知ることがたくさんあって、驚きの連続でした。

高校の同級生は小・中学校の同級生とは違い断片的なことしか覚えていないのかもしれない。それでも高校の先輩、同級生、後輩が同窓生という枠組のなかで交流できるということは嬉しいことだと思います。

荒砥高校の 現状報告

守屋 一郎
(昭和49年度卒)

白鷹町に住んでいる者から見た荒砥高校の現状をお伝えします。

今年（令和5年4月）の入学者は、定員一杯の40名でした。これは快挙です。定員を満たしたのは手元にある資料によると平成23年以降ありません。

3学年、生徒数77名でスタートしました。

県内や置賜地区を見ても、定員を充足した高校は少数です。（山形新聞記事）

定員を確保した要因を考えますと、昨年の支部報にも書かせて頂いた、白鷹町からの手厚い支援が大きいのと思います。

また、先日同窓会役員と学校を訪問した際、地主校長先生に新入生の増加要因を伺った所、「町が派遣している高校魅力化コーディネーター山川さん（前白鷹



中学校長の情報発信が寄与しているのでは」とのことでした。山川コーディネーターは、町内6箇所のコミュニティセンター、町内や長井市の中学校等に対して荒砥高校の活動を紹介する掲示場所の確保や掲示物の作成に貢献しているとのことでした。

私も荒砥、十王地区のコミセンで、楽しそうに活動している荒砥高校生の様子を見て、高校の存在を身近に感じていました。紙面も大きく見やすいです。この様に地道な活動を積み上げて行くことが高校存続に繋がるものと思います、今後の活動を見守りたいと思います。



人は、荒砥高校昭和三十年度卒業後、農業を手伝いながら森林組合の苗木育成等に従事していました。鉄橋嵩上げ工事には昭和三十三年五月から十二月まで携わり、古い橋脚の中間に新たに橋脚を基礎から造り、掘削は周りを天板と丸太で囲いドラム缶に、土砂をスコップで入れ・そのドラム缶をウインチで地上に吊り上げの繰り返しで掘削する。底辺にコンクリート張って鉄筋組み立上げ・型枠組み・コンクリート流し込み・堤防の両サイド土盛りに従事しました。当時は現在と違い最新の重機は無く、丸太で組んだアームでのウインチでした。

人海戦術でスコップ・つるはし、コンクリート運搬は丸太で組んだ歩み板上をネコ車で、堤防でコンクリート練場から一番奥の橋脚迄は大部距離があり苦労でした。土盛り作業は手押しのトロコで土砂を運び、堤防の両サイドの土盛りも嵩上げて、肉体労働の連続でした。

クリート練場から一番奥の橋脚迄は大部距離があり苦労でした。土盛り作業は手押しのトロコで土砂を運び、堤防の両サイドの土盛りも嵩上げて、肉体労働の連続でした。

荒砥鉄橋嵩上げ工事の思い出

宮城文井(鮎貝出身)

2023年4月

菅野孝雄

去る5月2日、前支部長「菅野孝雄」氏が病気のため逝去されました。
ここに関東支部一同謹んで哀悼の意を表します。
また、生前菅野氏より支部報への原稿を預かっておりましたので、今回掲載させていただきます。

関東支部の皆様いかがお過ごしでしょうか。
さて私は、思いもよらぬ病気に罹り、支部長としての職責がままならぬ状態になりました。
また、他の役員も高齢のため、様々な問題が生じ、悩みの毎日でありましたが、関東支部のため、協力したいと言う後輩たちのおかげで、この度、新役員会が立ち上がりました。
別府忠雄氏には、無理を承知で新しい支部長をお願いし、幸いにもご承諾をいただきました。
新役員の皆様へのご理解とご協力を切にお願い申し上げます。
さて母校では、40名の新入生を迎え、第75回入学式が4月8日に挙行されたとのこと、心からお祝い申し上げます。
また、これまで荒砥高校存続のために尽力されてきた関係各位に心より感謝申し上げます。
これを弾みに、夢と希望のある高校として、母校が益々躍進されますことを、そして荒砥高校同窓会関東支部の一層の発展を願っております。
最後に、これまで私にお力添えを頂いた皆様に、深く感謝申し上げます次第です。

関東支部の皆様へ

荒高同窓会関東支部 総会・懇親会のご案内

日時.. 10月7日(土) 11:00~14:00

場所.. 喜山倶楽部「芙蓉の間」

東京都千代田区一ツ橋2-6-2

日本教育会館9階

電話番号 03-3262-7661

会費.. 8,000円



十王出身 昭和三十四年度卒

画家 八樹会代表

フランス芸術家協会永久会員

別府忠雄

茨城県牛久市牛久町三一六九一三

鮎貝出身 昭和三十年年度卒

宮城文井

川崎市多摩区菅馬場一六六一二〇一

鮎貝出身 昭和四十四年度卒

作詞家

日本音楽著作権協会正会員

風戸強

我孫子市泉三八一三〇七

東根出身 昭和四十七年度卒

梅津好春

東京都大田区西蒲田三一九二二一

十王出身 昭和四十九年度卒

守屋一郎

千葉県船橋市二和東五一五二一九

中山出身 昭和五十年年度卒

山川昭雄

神奈川県川崎市高津区宇奈根六三九一〇三

荒砥出身 昭和五十年年度卒

長谷部誠

埼玉県所沢市小手指町一七 C一六〇五